

平成16年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」表彰団体概要

釜石市(岩手県) 人口：約44千人 面積：441km²

釜石市はリアス式海岸で知られる陸中海岸国立公園のほぼ中央に位置し、冬でも比較的温暖な気候を有している。古くから製鉄業により東北有数の工業地帯だったが、近年は産業構造の転換などにより人口が減少しつつある。

臨海部という立地を活用し、港を活かしたりサイクルポート事業や、漁業系廃棄物等の各種のリサイクル産業、豊かな自然を活用したエコツーリズム事業など、地域の特色を活かした環境産業の振興を事業者と共に取り組んでおり、環境と経済の統合に向けた積極的かつ実践的な取組が行われている。

葛巻町(岩手県) 人口：約8千人 面積：434km²

葛巻町は北上山地の北部に位置し、その面積の多くを森林が占めている。山岳と渓谷、なだらかな高原など変化に富む地形が広がり、山の斜面は林地、高原状の頂上部は牧場として活用されている。

これまで積極的に太陽光や風力、バイオマス等のクリーンエネルギーの導入に取り組んでおり、これらを活用した環境学習の取組等を通して、子ども達をはじめとした町民が新エネルギーや地球温暖化問題などに高い意識を持つに至っている。また、希少動植物に配慮した河川の整備を進めるなど、自然との共生を目指し、町民、事業者、学校、専門家を巻き込んで、循環型社会の形成に向け、協働のまちづくりを実践している。

北区(東京都) 人口：約328千人 面積：20km²

北区は東京都の北部に位置し、東西に狭く南北に長い形状をしており、地形は大きく山の手台地と下町低地の2つに分けられる。

都市部ながら比較的良好的な自然が残る立地と、環境に対する高い市民意識を背景に、積極的な環境保全の取り組みが行われている。特に市民の自主的取組や行政との協働による「花*みどり」・やすらぎ戦略を重点事業として打ち出し、市民ボランティアによる緑化活動はじめとして、区立清水坂自然ふれあい情報館や赤羽自然観察公園などを活用しながらフィールドワークや環境学習等が行われている。

また、学校給食の残菜をコンポスト化し友好都市の群馬県甘楽町で有機栽培の肥料に使用し、栽培された有機野菜を学校給食に利用したり販売する食と農の交流事業を市民団体と協働で行っている。さらに、低公害車の積極導入、河川生物調査等を事業者や区民団体とともに継続的に進めている。

立山町(富山県) 人口：約28千人 面積：308km²

立山町は富山県東部に位置し、三千メートル級の山々が連なる立山連峰と日本有数の急流河川である常願寺川に東西を挟まれている。町の全面積の3分の2以上を占める山岳部は、称名滝や弥陀ヶ原などの景観を形成し、立山黒部アルペンルートが整備され県内随一の観光地となっている。

マイカーの乗り入れ禁止や山岳トイレ導入など自然環境の保全をはじめ、生ごみの堆肥化事業や、家庭・事業・学校版ISOの住民主導による導入事業、及び環境教育などにおいても、地域の多様な主体の協働により取組が行われている。また、良好な自然環境が観光資源であり、良好な環境を保全することが観光資源価値の向上、経済の振興に繋がるため、「環境と経済の統合」を以前から実践してきた地域でもあり、最近ではグリーンツーリズムを導入し、地域の新しい魅力拡大を図っている。

飯田市(長野県) 人口：約107千人 面積：325km²

飯田市は南アルプスと中央アルプスに囲まれ、市域のほぼ中央に流れる天竜川両岸に広がる豊かな自然と優れた景観を有している。

「天竜峡エコバレープロジェクト」による環境産業の誘致・育成や「地域ぐるみ環境ISO研究会」による独自の環境マネジメントシステムの構築・普及など、多くの先進的な取組が実行されており、かつ、それらの取組が市民や事業者、学校などの様々な主体の参画により実行されている。また、安価で幅広い普及を目指す独自の環境マネジメントシステムをはじめ、「ぐりいいんだ」認定事業、エコツーリズムの推進など、環境と経済の統合に向けた取組が行われている。

多治見市(岐阜県) 人口：約106千人 面積：78km²

多治見市は岐阜県の南東部に位置し、市内の中心部には市民が「ふるさと」を感じる土岐川が流れている。また、市内では絶滅危惧種であるクロメダカやオオタカが生息し、身近に豊かな自然を感じることができる。

クロメダカの保護をテーマとしたビオトープを整備し、単に動植物の保護にとどまらず、人と人の結びつきを重視し、「ふるさと」としての原風景を後世に引き継げるよう取組むとともに、自然環境の保全や地域の美化運動を進めている。これらのビオトープ整備は、行政が地域住民、子どもたち、さらに地域の事業者の連携をコーディネートすることにより、地域における自主的で継続的な活動として展開されている。また、地域コミュニティの活性化や経済的な活性化にも発展しつつある。

田原市(愛知県) 人口：約43千人 面積：106km²

田原市は愛知県の南東部にある渥美半島に位置し、太平洋と三河湾に面する半島特有の豊かな自然環境が残っている地域である。

畜産を始めとした農業や、自動車製造を中心とした製造業などの産業の振興について、環境対策と併せて取り組んでいる。遊休地を活用した菜の花エコプロジェクトや、畜産の堆肥化、太陽光や風力発電などの新エネルギーの活用などについて積極的に推進し、産業と環境が共に好循環する地域の形成を目指す「たはらエコ・ガーデンシティ構想」を進めている。構想の推進においては、農家や自動車会社などの事業者との連携により、温室効果ガス10%削減(1990年度比)にも取り組んでいる。

川上村(奈良県) 人口：約2千人 面積：269km²

川上村は奈良県南東部の三重県境に位置し、日本でも有数の多雨地帯にあり、吉野川(紀ノ川)が村の中心を流れている。また、村の面積の95%が山林であり、吉野林業発祥の地として古くから林業で栄えてきた村である。

吉野川の源流を形作る森林を保全し、地域の特性として活用していくための様々な取組を行っている。特に源流部の原生林を公費により購入し、「水源地の森」として保全・調査などを行うとともに、流域単位での交流や環境学習に力を入れており、水源地を保全する責任を持つ村として、その地域に住まう人々だけでなく水源地から流れてくる水を利用している人々にも森林保全の必要性を普及させている。

大佐町(岡山県) 人口：約4千人 面積：121km²

大佐町は岡山県の最西北端に位置し、中国山地の脊梁地帯の山々に囲まれた自然豊かな地域である。面積の約90%が山林であり、小坂部川沿いに集落を形成している。

家庭版・学校版ISOの実施や、廃食油の回収・燃料への再利用化、学校などの公共施設に新エネ設備を導入するなど、様々な取組を町民との協働で積極的に進めている。また、家屋への地域産材使用に対する補助制度や、住宅や公共施設等への地域産材使用の積極的推進などにより、森林資源の活用・保全と、それら森林資源をフィールドにして地域を越えた環境学習を実施するなど、地域の特性を活かした取組を行っている。さらにリサイクル拠点やバスの待合所などの複合的役割を担う「風のふれあいステーション」の整備や、小坂部川流域自治体の連携による環境学習などにより地域間の人的交流を図るなど、地域コミュニティの活性化を積極的に行っている。

熊本市(熊本県) 人口：約670千人 面積：267km²

熊本市は九州のほぼ中心に位置し、坪井川、白川、緑川の3水系の下流部に形成された熊本平野の大部分を占めている。また、古くから「水の都」と呼ばれ、全ての生活用水や各種産業用水を地下水でまかなっている。

地下水の保全という市単独の取組だけでは困難な事業を、「農」を守って「水」を守るという意識に基づき、水田への補助金等を活用しながら流域住民、流域自治体の理解・協力を得て進めている。また、多くの市民で構成される「環境パートナーシップくまもと市民会議」と協働して環境総合計画の推進に取り組んでおり、エコマネー流通実験や環境教育の推進など、市民の自主的な取組が様々な分野において実施されている。